

佐賀県研究成果情報

施設栽培ブドウ「安芸クイーン」の品質向上と癒合促進に効果的な環状はく皮処理幅					
[要約]ブドウ「安芸クイーン」の環状はく皮は、従来の20mmより狭い5～10mmの幅で処理しても、 <u>糖度</u> が高く減酸が早くなり、 <u>着色</u> が向上し、早期収穫ができる。さらに、はく皮部の癒合も早い。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果	樹	専 門	栽 培	対 象
					ブドウ

[背景・ねらい]

ブドウ「安芸クイーン」は、食味が良く、大粒な有望品種であるが、着色が悪く、本来の鮮紅色にならないのが欠点である。その対策として満開30～40日後に処理幅20mmで環状はく皮処理を行って品質向上に効果をあげているが、20mm幅では癒合するまでに約1ヶ月かかるため樹勢の低下が懸念される。そこで、従来の20mmより狭い処理幅での品質向上と癒合促進効果を明らかにし、より取り組みやすい環状はく皮技術を確立することで「安芸クイーン」の安定生産による農家所得の向上、ブドウ産地の活性化を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 開花30～40日後に主幹部に5～20mmで環状はく皮処理(図1、図2)をすると、糖度は処理幅に関係なく無処理に比べ明らかに高く推移する(表1)。
2. 酸度は環状はく皮処理をすると処理幅に関係なく明らかに低く推移する(表2)。
3. 収穫時の果実品質は果房重と一粒重に差はないが、環状はく皮処理により着色、糖度は明らかに向上し、酸度は低くなる。処理幅の違いによる品質の差はほとんどない(表3)。
4. はく皮部は5mm処理で約15日、20mm処理の場合約1ヶ月で癒合する(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 施設栽培ブドウ「安芸クイーン」の品質向上と熟期促進技術として活用できる。
2. 環状はく皮ははく皮幅が広すぎると癒合が不完全となり、樹勢低下の恐れがある。
3. はく皮部は害虫による食害をうけると樹勢低下の恐れがあるので、スカシバ類、コウモリガの食害に注意し、必要に応じて殺虫剤を散布する。
4. 着果過多は着色不良を招く大きな要因であり、環状はく皮の効果も劣るので必ず適正着果量(1.2～1.5t/10a)を守る。

[具体的データ]

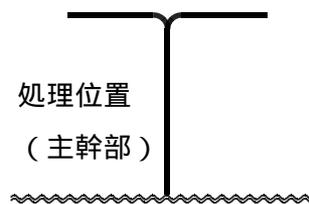


図1 はく皮位置



図2 処理直後の状況

第1表 ハウス栽培「安芸クイーン」の環状はく皮における処理幅の違いと糖度(Brix)の推移

	5月28日	6月8日	6月19日	6月29日	7月10日
はく皮幅 5 mm 区	12.1	14.8	17.6	18.8	19.5
はく皮幅 10mm 区	11.2	13.7	15.7	18.9	19.5
はく皮幅 20mm 区	11.4	14.3	16.2	19.1	18.8
無処理区	7.0	10.1	11.8	13.3	14.2

第2表 ハウス栽培「安芸クイーン」の環状はく皮における処理幅の違いと酸度(g/100 ml)の推移

	5月28日	6月8日	6月19日	6月29日	7月10日
はく皮幅 5 mm 区	1.52	0.85	0.59	0.49	0.45
はく皮幅 10mm 区	1.69	0.98	0.78	0.50	0.55
はく皮幅 20mm 区	1.58	1.05	0.65	0.53	0.48
無処理区	2.19	1.72	1.03	0.85	0.80

第3表 ハウス栽培「安芸クイーン」の環状はく皮における処理幅の違いが収穫時の果実品質におよぼす影響²⁾

試験区	果房重 (g)	着粒数	一粒重 (g)	着色 ³⁾	糖度 (Brix)	酸度 (g/100 ml)
はく皮幅 5 mm 区	362.6a ²⁾	26.1a	13.9a	3.9a	19.5a	0.45d
はく皮幅 10mm 区	358.2a	26.3a	13.6a	4.1a	19.5a	0.55b
はく皮幅 20mm 区	359.0a	26.8a	13.4a	3.9a	18.8b	0.48c
無処理区	376.0a	27.0a	13.9a	1.0b	14.2c	0.80a

²⁾2007年7月10日調査

³⁾着色は達観により5：良、3：中、1：不良として指数化

²⁾同一列内の異なる英字は Tukey-Kramer の HSD 検定 5%水準で有意差あり

[その他]

研究課題名：赤色系、白色系ブドウ新品種の栽培技術確立による新商材の開発

予算区分：県単

研究期間：2005～2010年度

研究担当者：福田浩幸、稲富和弘、加藤恵

発表論文等：2007年度落葉果樹試験研究成績概要集